

# 高金利成長通貨ファンド（毎月分配型） 〈愛称 インカムグロース〉

## 運用報告書（全体版）

第102期（決算日 2019年2月20日） 第104期（決算日 2019年4月22日） 第106期（決算日 2019年6月20日）  
第103期（決算日 2019年3月20日） 第105期（決算日 2019年5月20日） 第107期（決算日 2019年7月22日）

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。  
「高金利成長通貨ファンド（毎月分配型）」は、2019年7月22日に第107期の決算を行ないましたので、第102期から第107期の運用状況をまとめてご報告申し上げます。  
今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

### 当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2010年8月31日から2020年7月21日までです。
運用方針	主として、国際経済・金融システム上、重要とみられる国や地域の通貨建ての高格付けソブリン債券（国債、州政府債、政府保証債、国際機関債などをいいます。）を主要投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要運用対象	「インカム&グロース・カレンシーファンド クラスA」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託以外の有価証券への直接投資は行ないません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	第1計算期は収益分配を行ないません。第2計算期以降、毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。

### お知らせ

当ファンドは、2020年7月21日に信託期間が終了し、償還を迎える予定です。

<641359>

## 日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号  
www.nikkoam.com/

### 当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号：0120-25-1404  
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

## 【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

## ○最近30期の運用実績

決算期	基 (分配落)	準 価 額			債 組 入 比	券 率	投 資 組 入 比	信 託 率	純 資 産	産 額
		税 分	込 配	み 金 期 騰 落						
78期(2017年2月20日)	円 4,255		円 60		% 1.1	—	% 98.0		百万円 2,842	
79期(2017年3月21日)	4,240		60		1.1	—	98.0		2,814	
80期(2017年4月20日)	4,044		60		△3.2	—	98.5		2,679	
81期(2017年5月22日)	4,076		60		2.3	—	97.9		2,666	
82期(2017年6月20日)	4,065		60		1.2	—	98.1		2,646	
83期(2017年7月20日)	4,081		60		1.9	—	99.6		2,721	
84期(2017年8月21日)	3,961		60		△1.5	—	98.0		2,655	
85期(2017年9月20日)	4,023		60		3.1	—	98.5		2,694	
86期(2017年10月20日)	3,933		60		△0.7	—	98.0		2,618	
87期(2017年11月20日)	3,784		60		△2.3	—	97.8		2,532	
88期(2017年12月20日)	3,783		60		1.6	—	98.1		2,510	
89期(2018年1月22日)	3,720		60		△0.1	—	98.0		2,453	
90期(2018年2月20日)	3,548		30		△3.8	—	97.2		2,327	
91期(2018年3月20日)	3,437		30		△2.3	—	97.7		2,204	
92期(2018年4月20日)	3,426		30		0.6	—	97.8		2,160	
93期(2018年5月21日)	3,289		30		△3.1	—	98.0		2,042	
94期(2018年6月20日)	3,227		30		△1.0	—	97.8		1,984	
95期(2018年7月20日)	3,211		30		0.4	—	98.0		1,933	
96期(2018年8月20日)	2,925		30		△8.0	—	97.8		1,741	
97期(2018年9月20日)	2,858		30		△1.3	—	99.0		1,686	
98期(2018年10月22日)	2,967		30		4.9	—	97.8		1,737	
99期(2018年11月20日)	3,060		30		4.1	—	97.8		1,782	
100期(2018年12月20日)	3,064		30		1.1	—	98.0		1,778	
101期(2019年1月21日)	3,010		30		△0.8	—	97.8		1,733	
102期(2019年2月20日)	3,048		30		2.3	—	97.8		1,738	
103期(2019年3月20日)	3,037		30		0.6	—	97.8		1,714	
104期(2019年4月22日)	2,968		30		△1.3	—	98.2		1,652	
105期(2019年5月20日)	2,817		30		△4.1	—	97.7		1,554	
106期(2019年6月20日)	2,860		30		2.6	—	97.5		1,587	
107期(2019年7月22日)	2,914		30		2.9	—	97.6		1,569	

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) ファンドの商品性格に適合する適切なベンチマークおよび参考指数はございません。

## ○当作成期中の基準価額と市況等の推移

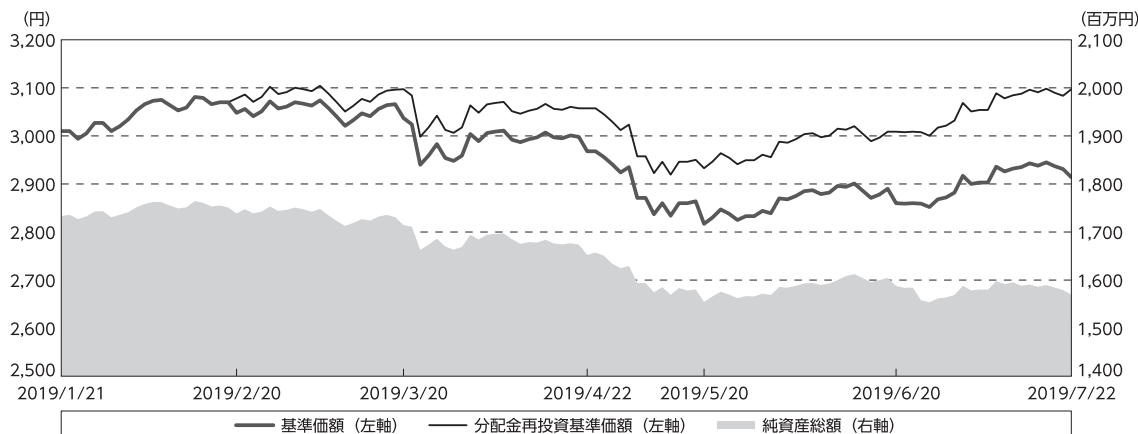
決 算 期	年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率		投 資 信 託 組 入 比	託 券 率
第102期	(期 首) 2019年1月21日	円 3,010		% -		% 97.8
	1月末	3,034		0.8		98.2
	(期 末) 2019年2月20日	3,078		2.3		97.8
第103期	(期 首) 2019年2月20日	3,048		-		97.8
	2月末	3,061		0.4		98.2
	(期 末) 2019年3月20日	3,067		0.6		97.8
第104期	(期 首) 2019年3月20日	3,037		-		97.8
	3月末	2,948		△2.9		98.2
	(期 末) 2019年4月22日	2,998		△1.3		98.2
第105期	(期 首) 2019年4月22日	2,968		-		98.2
	4月末	2,924		△1.5		98.0
	(期 末) 2019年5月20日	2,847		△4.1		97.7
第106期	(期 首) 2019年5月20日	2,817		-		97.7
	5月末	2,870		1.9		98.2
	(期 末) 2019年6月20日	2,890		2.6		97.5
第107期	(期 首) 2019年6月20日	2,860		-		97.5
	6月末	2,872		0.4		98.1
	(期 末) 2019年7月22日	2,944		2.9		97.6

(注) 期末の基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

## ○運用経過

(2019年1月22日～2019年7月22日)

## 作成期間中の基準価額等の推移



第102期首：3,010円

第107期末：2,914円（既払分配金（税込み）：180円）

騰落率：2.9%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

（注）分配金再投資基準価額は、作成期首（2019年1月21日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

（注）上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

（注）当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、内外の通貨建て債券を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

## ＜値上がり要因＞

- ・保有債券からの金利収入を得たこと。
- ・新興国市場の債券利回りが全般的に低下（債券価格は上昇）したこと。
- ・投資対象通貨のインドルピーなどが対円で上昇したこと。

## ＜値下がり要因＞

- ・投資対象通貨のトルコリラなどが対円で下落したこと。

## 投資環境

### （債券市況）

期間の初めには、市場の大方の予想として、主要中央銀行は年間を通じた利上げやバランスシートの縮小を通じて流動性の引き締めを継続するとみられていました。しかし、米国連邦準備制度理事会（FRB）は追加利上げを実施しない見込みであることや、利下げについての議論が高まるなどハト派（景気に対して弱気）的な姿勢を強めていることに加えて、ドラギ欧州中央銀行（ECB）総裁が追加利下げおよび資産購入の可能性について示唆するなど、状況は大きく変化しました。こうした動向は海外投資家からの資金流入という歓迎すべき追い風をもたらすとみられるなど、ファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）が良好な新興国債券にとってプラスに働く可能性があると考えられました。また、先進国の成長が緩やかに鈍化していることから、新興国の経済成長は相対的により魅力的なものとなりました。さらに、これまで新興国に影響を及ぼしてきた中国の成長鈍化は、すでに市場に十分に織り込まれています。G20会合でトランプ米国大統領および中国の習近平国家主席の間で前向きな発言があったとはいえ、中国から米国への2,000億ドル相当の輸入品には依然として25%の関税が賦課されており、貿易摩擦が長期化する可能性を考慮する必要があります。一方で、中国は同時に追加関税の悪影響を一定程度相殺するために複数の景気刺激策を活用しています。したがって、市場の見方は依然として慎重なものと考えられますが、2019年の各新興国市場は回復基調を辿るとの見方をしています。

### （国内短期金利市況）

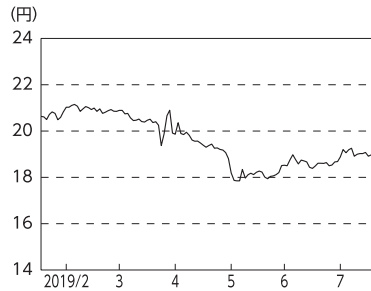
無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.07%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、-0.06%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.20%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.13%近辺で期間末を迎えました。

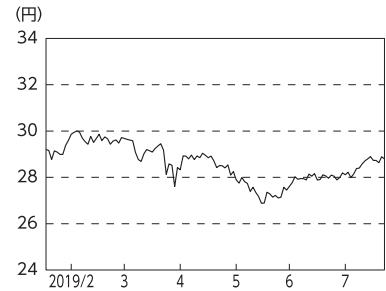
（為替市況）

期間中における主要通貨（対円）は、右記の推移となりました。

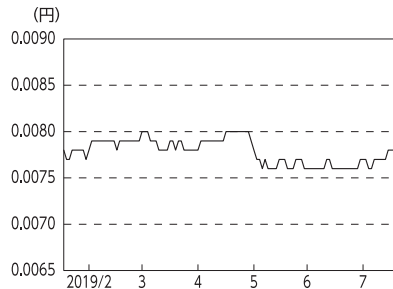
円／トルコリラの推移



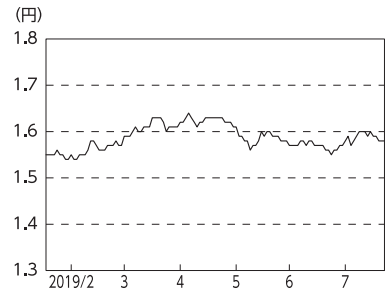
円／ブラジルレアルの推移



円／インドネシアルピアの推移



円／インドルピーの推移



## 当ファンドのポートフォリオ

（当ファンド）

当ファンドは、収益性を追求するため、「インカム&グロース・カレンシーファンド クラスA」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

（インカム&グロース・カレンシーファンド クラスA）

期間の初めから、ブラジル、インドネシア、インド、トルコへの投資を継続し、ポートフォリオに大きな変更はありませんでした。トルコやインドに対する投資比率をやや低めとする一方で、ブラジルやインドネシアは高めの投資比率を維持しました。

当ファンドではインドネシアの組入比率を高めとしました。インドネシアでは、ジョコ・ウィドド（ジョコウィ）大統領のもとで政治環境が大きく改善しました。格付け機関S&Pが2017年5月に同国のソブリン価格付けを「BBB+」から「BBB-」に引き上げたことを受けて、格付け機関大手3社すべてから初めて投資適格級が付与され、その後も外的ショックへの耐性が大幅に強まったとして、格付け機関3社すべてが格上げを実施しました。インフレ圧力は抑制的であったものの、インドネシア中央銀行は2018年を通じて先

制的な利上げサイクルに乗り出して高い信頼性を示しました。その結果、現地通貨建て債券は足元で高水準なインカムの創出を提供しており、特に過去最低水準近辺にあるインフレの調整後で高水準となっています。さらに、特にFRBが2019年7月に利下げを行なうことが見込まれるなど先進国市場の中央銀行のハト派色が強まるなか、インドネシア中央銀行はその動きに追随する可能性があることから、現地通貨建て債券にとって追い風となります。インドネシアルピアも、生産性の伸びを考慮すると長期的な観点から依然として過小評価されていると考えられます。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

### 当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

### 分配金

分配金は、運用実績や市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第102期	第103期	第104期	第105期	第106期	第107期
	2019年1月22日～ 2019年2月20日	2019年2月21日～ 2019年3月20日	2019年3月21日～ 2019年4月22日	2019年4月23日～ 2019年5月20日	2019年5月21日～ 2019年6月20日	2019年6月21日～ 2019年7月22日
当期分配金	30	30	30	30	30	30
(対基準価額比率)	0.975%	0.978%	1.001%	1.054%	1.038%	1.019%
当期の収益	30	30	30	30	30	30
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	916	920	925	929	935	942

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## ○今後の運用方針

---

(当ファンド)

引き続き、「インカム&グロス・カレンシーファンド クラスA」受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

(インカム&グロス・カレンシーファンド クラスA)

外的要因に大きく左右されることのない強固なストーリーおよび魅力的なバリュエーション（価値評価）に引き続き注目しています。中期的には、新興国市場に対して強気な見方を維持しています。先進国の金融政策の正常化がほぼ完了して現在は再び緩和方向に転じており、また新興国の成長が先進国を上回るなか、新興国市場と先進国市場の成長のカイ離は再び拡大傾向を辿る見込みです。この点を踏まえ、為替動向がファンダメンタルズに基づく動きを超えたものとなっているなか、リスクの多くはすでに市場に織り込まれていることから、ポートフォリオのリスクを再び引き上げています。

インフレ率に対して金利が高く実質的なインカムの創出が高水準である市場、構造的改革に下支えされた長期的な成長ポテンシャルがある市場、制度的な信頼が強固であり長期的な世界のトレンドの恩恵を十分に受けられる立場にある市場に着目し、引き続き積極的に新規投資機会を追求していく方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主要投資対象は原則として、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コールローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## ○ 1 万口当たりの費用明細

(2019年 1 月22日～2019年 7 月22日)

項 目	第102期～第107期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 13	% 0.452	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	( 4 )	(0.140)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	( 9 )	(0.296)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	( 0 )	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.046	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	( 0 )	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 ）	( 1 )	(0.044)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
（ そ の 他 ）	( 0 )	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	14	0.498	
作成期間の平均基準価額は、2,951円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

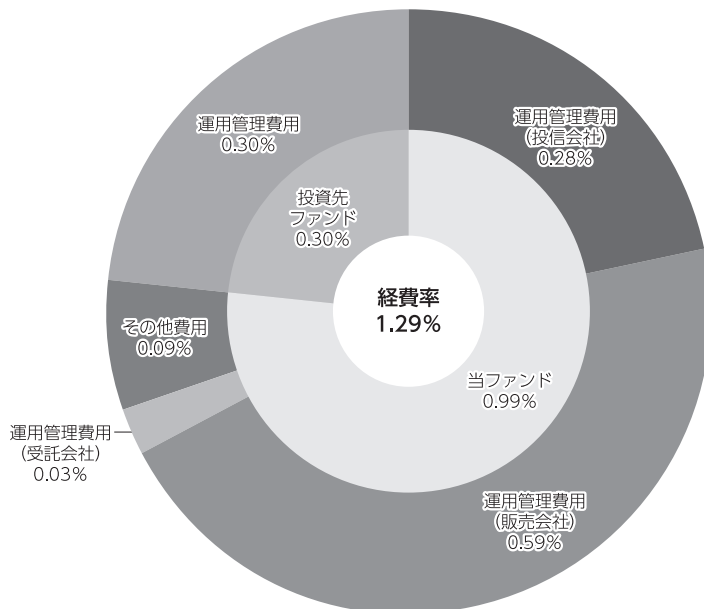
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

## （参考情報）

## ○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.29%です。



(単位:%)

経費率(①+②)	1.29
①当ファンドの費用の比率	0.99
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.30

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ○売買及び取引の状況

(2019年1月22日～2019年7月22日)

## 投資信託証券

銘柄		第102期～第107期			
		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
国内	インカム&グロス・カレンシーファンド クラスA	千口 172,273	千円 46,650	千口 514,062	千円 140,192

(注) 金額は受け渡し代金。

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄		第102期～第107期			
		設定		解約	
		口数	金額	口数	金額
	マネー・アカウント・マザーファンド	千口 73	千円 73	千口 226	千円 227

## ○利害関係人との取引状況等

(2019年1月22日～2019年7月22日)

## 利害関係人との取引状況

## &lt;高金利成長通貨ファンド（毎月分配型）&gt;

区分	第102期～第107期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
投資信託証券	百万円 46	百万円 46	% 100.0	百万円 140	百万円 140	% 100.0
金銭信託	303	303	100.0	303	303	100.0

## &lt;マネー・アカウント・マザーファンド&gt;

区分	第102期～第107期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
金銭信託	百万円 3,677	百万円 3,677	% 100.0	百万円 3,677	百万円 3,677	% 100.0

平均保有割合 0.3%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当ファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三井住友信託銀行株式会社です。

## ○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況（2019年1月22日～2019年7月22日）

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

## ○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2019年1月22日～2019年7月22日)

該当事項はございません。

## ○組入資産の明細

(2019年7月22日現在)

## ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘	柄	第101期末	第107期末		
		口数	口数	評価額	比率
		千口	千口	千円	%
インカム&グロース・カレンシーファンド クラスA		6,055,477	5,713,689	1,531,840	97.6
合	計	6,055,477	5,713,689	1,531,840	97.6

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

## 親投資信託残高

銘	柄	第101期末	第107期末	
		口数	口数	評価額
		千口	千口	千円
マネー・アカウント・マザーファンド		1,719	1,566	1,570

(注) 親投資信託の2019年7月22日現在の受益権総口数は、564,738千口です。

## ○投資信託財産の構成

(2019年7月22日現在)

項 目	第107期末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	1,531,840	96.2
マネー・アカウント・マザーファンド	1,570	0.1
コール・ローン等、その他	58,282	3.7
投資信託財産総額	1,591,692	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第102期末	第103期末	第104期末	第105期末	第106期末	第107期末
	2019年2月20日現在	2019年3月20日現在	2019年4月22日現在	2019年5月20日現在	2019年6月20日現在	2019年7月22日現在
	円	円	円	円	円	円
(A) 資産	1,762,608,369	1,740,792,877	1,678,406,946	1,578,719,584	1,608,952,289	1,591,692,623
コール・ローン等	52,375,342	62,520,029	54,834,295	57,747,285	53,546,195	35,498,337
投資信託受益証券(評価額)	1,699,592,423	1,676,536,604	1,621,911,185	1,519,394,019	1,548,095,067	1,531,840,119
マネー・アカウント・マザーファンド(評価額)	1,735,290	1,716,858	1,661,466	1,578,280	1,609,587	1,570,642
未収入金	8,905,314	19,386	—	—	5,701,440	22,783,525
(B) 負債	24,011,022	26,305,628	25,933,900	24,117,978	21,135,262	21,800,064
未払収益分配金	17,110,704	16,935,870	16,703,785	16,555,947	16,656,163	16,164,935
未払解約金	4,639,321	7,082,390	6,630,232	5,111,996	1,804,508	2,831,361
未払信託報酬	1,303,364	1,208,637	1,381,390	1,120,100	1,221,359	1,257,133
未払利息	66	56	60	82	63	61
その他未払費用	957,567	1,078,675	1,218,433	1,329,853	1,453,169	1,546,574
(C) 純資産総額(A-B)	1,738,597,347	1,714,487,249	1,652,473,046	1,554,601,606	1,587,817,027	1,569,892,559
元本	5,703,568,184	5,645,290,286	5,567,928,452	5,518,649,148	5,552,054,435	5,388,311,875
次期繰越損益金	△3,964,970,837	△3,930,803,037	△3,915,455,406	△3,964,047,542	△3,964,237,408	△3,818,419,316
(D) 受益権総口数	5,703,568,184口	5,645,290,286口	5,567,928,452口	5,518,649,148口	5,552,054,435口	5,388,311,875口
1万口当たり基準価額(C/D)	3.048円	3.037円	2.968円	2.817円	2.860円	2.914円

(注) 当ファンドの第102期首元本額は5,757,914,535円、第102～107期中追加設定元本額は147,313,295円、第102～107期中一部解約元本額は516,915,955円です。

(注) 1口当たり純資産額は、第102期0.3048円、第103期0.3037円、第104期0.2968円、第105期0.2817円、第106期0.2860円、第107期0.2914円です。

(注) 2019年7月22日現在、純資産総額は元本額を下回っており、その差額は3,818,419,316円です。

## ○損益の状況

項 目	第102期	第103期	第104期	第105期	第106期	第107期
	2019年1月22日～ 2019年2月20日	2019年2月21日～ 2019年3月20日	2019年3月21日～ 2019年4月22日	2019年4月23日～ 2019年5月20日	2019年5月21日～ 2019年6月20日	2019年6月21日～ 2019年7月22日
	円	円	円	円	円	円
(A) 配当等収益	21,072,543	20,858,606	20,658,029	20,459,617	20,615,599	20,071,409
受取配当金	21,073,753	20,859,358	20,659,494	20,461,111	20,616,843	20,073,067
受取利息	11	18	-	-	-	-
支払利息	△ 1,221	△ 770	△ 1,465	△ 1,494	△ 1,244	△ 1,658
(B) 有価証券売買損益	19,260,347	△ 8,934,386	△ 40,940,734	△ 85,907,249	20,909,305	26,317,812
売買益	19,455,182	109,115	503,469	428,558	20,967,920	26,717,352
売買損	△ 194,835	△ 9,043,501	△ 41,444,203	△ 86,335,807	△ 58,615	△ 399,540
(C) 信託報酬等	△ 1,440,665	△ 1,335,942	△ 1,526,922	△ 1,238,513	△ 1,350,002	△ 1,356,700
(D) 当期損益金(A+B+C)	38,892,225	10,588,278	△ 21,809,627	△ 66,686,145	40,174,902	45,032,521
(E) 前期繰越損益金	△2,512,188,793	△2,457,613,904	△2,422,488,338	△2,431,639,296	△2,505,082,411	△2,399,109,734
(F) 追加信託差損益金	△1,474,563,565	△1,466,841,541	△1,454,453,656	△1,449,166,154	△1,482,673,736	△1,448,177,168
(配当等相当額)	( 368,092,471)	( 364,786,689)	( 360,272,619)	( 357,561,366)	( 361,274,703)	( 351,209,809)
(売買損益相当額)	(△1,842,656,036)	(△1,831,628,230)	(△1,814,726,275)	(△1,806,727,520)	(△1,843,948,439)	(△1,799,386,977)
(G) 計(D+E+F)	△3,947,860,133	△3,913,867,167	△3,898,751,621	△3,947,491,595	△3,947,581,245	△3,802,254,381
(H) 収益分配金	△ 17,110,704	△ 16,935,870	△ 16,703,785	△ 16,555,947	△ 16,656,163	△ 16,164,935
次期繰越損益金(G+H)	△3,964,970,837	△3,930,803,037	△3,915,455,406	△3,964,047,542	△3,964,237,408	△3,818,419,316
追加信託差損益金	△1,474,563,565	△1,466,841,541	△1,454,453,656	△1,449,166,154	△1,482,673,736	△1,448,177,168
(配当等相当額)	( 368,092,471)	( 364,786,689)	( 360,272,619)	( 357,561,366)	( 361,274,703)	( 351,209,809)
(売買損益相当額)	(△1,842,656,036)	(△1,831,628,230)	(△1,814,726,275)	(△1,806,727,520)	(△1,843,948,439)	(△1,799,386,977)
分配準備積立金	154,461,962	155,014,792	154,832,863	155,650,641	158,333,266	156,391,755
繰越損益金	△2,644,869,234	△2,618,976,288	△2,615,834,613	△2,670,532,029	△2,639,896,938	△2,526,633,903

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 分配金の計算過程(2019年1月22日～2019年7月22日)は以下の通りです。

項 目	2019年1月22日～ 2019年2月20日	2019年2月21日～ 2019年3月20日	2019年3月21日～ 2019年4月22日	2019年4月23日～ 2019年5月20日	2019年5月21日～ 2019年6月20日	2019年6月21日～ 2019年7月22日
a. 配当等収益(経費控除後)	20,319,742円	19,522,638円	19,131,051円	19,221,049円	19,945,267円	19,484,302円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金繰戻後)	0円	0円	0円	0円	0円	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	368,092,471円	364,786,689円	360,272,619円	357,561,366円	361,274,703円	351,209,809円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	151,252,924円	152,428,024円	152,405,597円	152,985,539円	155,044,162円	153,072,388円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	539,665,137円	536,737,351円	531,809,267円	529,767,954円	536,264,132円	523,766,499円
f. 分配対象収益(1万円当たり)	946円	950円	955円	959円	965円	972円
g. 分配金	17,110,704円	16,935,870円	16,703,785円	16,555,947円	16,656,163円	16,164,935円
h. 分配金(1万円当たり)	30円	30円	30円	30円	30円	30円

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上処理しています。

## ○分配金のお知らせ

	第102期	第103期	第104期	第105期	第106期	第107期
1万口当たり分配金（税込み）	30円	30円	30円	30円	30円	30円

## ○お知らせ

### 約款変更について

2019年1月22日から2019年7月22日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

- 当社ホームページにおいて、より高い安全性を確保するためのセキュリティ対策としてHTTPS化を実施することに伴ない、当ファンドの信託約款における当社ホームページURLの表示を「[www.nikkoam.com/](http://www.nikkoam.com/)」へ変更するべく、2019年4月20日付けにて信託約款に所要の変更を行ないました。（第48条、第48条の2）

当ファンドの主要投資対象先の直近の運用状況について、法令および諸規則に基づき、次ページ以降にご報告申し上げます。

種類・項目	インカム&グロース・カレンシーファンド クラスA
	ルクセンブルグ籍円建外国投資信託
<b>運用の基本方針</b>	
基本方針	利子収入および中長期的な値上がり益の獲得をめざします。
主な投資対象	ソブリン債券(国債、州政府債、政府保証債、国際機関債など)を主要投資対象とします。
投資方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際経済・金融システム上、重要とみられる国や地域の通貨建てのソブリン債券(国債、州政府債、政府保証債、国際機関債など)を主要投資対象とします。</li> <li>・ 通貨選定にあたっては、金利水準、通貨の成長性、流動性などを考慮します。</li> <li>・ 原則として、買付時においてAAA格相当の格付が付与されているソブリン債券(格付が付与されていない場合において、運用会社が同等の信用力を持つと判断したものを含みます。)に投資します。</li> <li>・ ポートフォリオの平均デュレーションは、原則として1年以内とします。</li> <li>・ 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行ないません。</li> </ul>
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 株式への投資は行ないません。</li> <li>・ 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。</li> </ul>
収益分配	原則として、毎月15日(休日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。
<b>ファンドに係る費用</b>	
信託報酬など	純資産総額に対し年率0.31%(国内における消費税等相当額はかかりません。)
申込手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
その他の費用など	事務管理費用、資産の保管費用、有価証券売買時の売買委託手数料、設立に係る費用、法律顧問費用、監査費用、信託財産に関する租税など。
<b>その他</b>	
投資顧問会社	日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッド
管理会社	日興AMルクセンブルグ・エス・エイ
信託期間	無期限
決算日	原則として、毎年2月末日

◆投資明細表

インカム&グロース・カレンシーファンド クラスA

通貨	額面金額	銘柄	純資産に 占める割合(%)	2019年2月28日現在 (単位：日本円) 市場価格
		A. 証券取引所に上場している、または他の規制市場で取引されている譲渡可能証券		
		債券 (83.8%)		
		国際機関 (83.8%)		
		社債等 (83.8%)		
		Asian Development Bank		
BRL	5,250,000	0.50% due 06/18/2019 <sup>(1)</sup>	8.9%	JPY 153,333,736
INR	55,000,000	6.95% due 01/16/2020	5.0	85,444,144
		European Bank for Reconstruction & Development		
BRL	2,000,000	0.50% due 9/24/2019 <sup>(1)</sup>	3.3	57,467,624
IDR	9,500,000,000	6.38% due 03/27/2019 <sup>(1)</sup>	4.4	75,055,400
IDR	10,000,000,000	6.88% due 04/24/2019	4.6	78,736,392
IDR	200,000,000	7.38% due 04/15/2019	0.1	1,579,480
TRY	2,000,000	20.00% due 10/16/2019	2.4	40,859,601
TRY	1,700,000	30.00% due 01/15/2020	2.2	37,695,820
		European Investment Bank		
IDR	18,000,000,000	7.20% due 07/09/2019	8.3	141,939,356
TRY	1,310,000	8.50% due 07/25/2019	1.5	26,158,575
		Inter-American Development Bank		
IDR	20,000,000,000	7.06% due 07/25/2019	9.1	156,417,316
BRL	4,000,000	7.10% due 07/26/2019 <sup>(1)</sup>	6.9	118,521,293
		International Bank for Reconstruction & Development		
INR	26,500,000	4.85% due 9/30/2019 <sup>(1)</sup>	2.4	40,651,800
BRL	2,750,000	7.30% due 12/12/2019 <sup>(1)</sup>	4.7	82,196,543
		International Finance Corp.		
INR	178,500,000	7.80% due 06/03/2019	16.2	279,831,400
TRY	750,000	8.95% due 5/28/2019 <sup>(1)</sup>	0.9	15,106,410
TRY	2,500,000	11.10% due 9/25/2019	2.9	49,473,207
		社債等合計		<u>1,440,468,097</u>
		国際機関合計		<u>1,440,468,097</u>
		債券合計 (取得原価 1,496,122,342円)		<u>1,440,468,097</u>
		短期投資 (12.6%)		
		国際機関 (12.6%)		
		社債等 (12.6%)		
		African Development Bank		
TRY	1,000,000	25.00% due 10/31/19	1.2	21,103,492
		European Bank for Reconstruction & Development		
TRY	8,050,000	27.50% due 10/02/19	10.0	171,849,841
TRY	1,100,000	28.50% due 07/10/19	1.4	23,249,414
		社債等合計		<u>216,202,747</u>
		国際機関合計		<u>216,202,747</u>
		短期投資合計 (取得原価 194,896,939円)		<u>216,202,747</u>
		証券市場に上場している、または他の規制市場で取引されている譲渡可能な証券合計 (取得原価 1,691,019,281円)	96.4%	JPY 1,656,670,844
		負債額を超過する現金およびその他の資産	3.6	61,796,810
		純資産合計	<u>100.0%</u>	<u>JPY 1,718,467,654</u>

<sup>(1)</sup> その他の規制市場で取引されている譲渡可能証券である。その他のすべての投資は公式の取引所に上場されている譲渡可能証券である。

通貨表示

BRL	ブラジル・レアル
IDR	インドネシア・ルピア
INR	インド・ルピー
JPY	日本円
TRY	トルコ・リラ

◆損益計算書および純資産変動計算書

インカム&グロース・カレンシーファンド クラスA

2019年2月28日に  
終了した会計年度  
(単位：日本円)

投資純利益：

収益：

受取利息

収益合計

JPY	168,952,191
	<u>168,952,191</u>

費用：

預託費用

管理手数料

取引費用

年次税

運用報酬

監査報酬

名義書換代理人報酬

弁護士報酬

投資運用報酬

その他費用

費用合計

投資純利益

	1,065,582
	5,463,371
	680,965
	177,969
	743,152
	238,140
	1,023,062
	276,547
	4,087,335
	1,098,571
	<u>14,854,694</u>
	<u>154,097,497</u>

実現および未実現純利益(損失)：

投資に係る実現純(損)益

外国為替取引および外国為替先渡契約に係る実現純(損)益

投資に係る未実現評価益の純変動額

外国為替取引および外国為替先渡契約に係る未実現評価益の純変動額

投資に係る実現および未実現純(損)益

	( 330,319,644)
	( 1,881,721)
	123,504,211
	4,447,250
	<u>( 204,249,904)</u>

運用による純資産の純増加(減少)額

( 50,152,407)

資本株式取引による純資産の減少額

( 218,934,993)

受益者に対する分配決定額

( 263,442,200)

純資産の減少額合計

( 532,529,600)

純資産：

期首

期末

	2,250,997,254
JPY	<u>1,718,467,654</u>

# マネー・アカウント・マザーファンド

## 運用報告書

第9期（決算日 2018年10月12日）  
（2017年10月13日～2018年10月12日）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	2009年10月30日から原則無期限です。
運用方針	公社債への投資により、安定した収益の確保をめざして安定運用を行いません。
主要運用対象	わが国の国債および格付の高い公社債を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行いません。 外貨建資産への投資は行いません。

## ファンド概要

主として、わが国の国債および格付の高い公社債に投資を行ない、利息等収益の確保をめざして運用を行いません。ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

## 【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

## ○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		債 組 入 比 率	純 資 産 額
		期 騰 落	中 率		
5期(2014年10月14日)	円		%	%	百万円
	10,042		0.1	60.8	707
6期(2015年10月13日)	10,043		0.0	62.9	620
7期(2016年10月12日)	10,042		△0.0	—	483
8期(2017年10月12日)	10,038		△0.0	—	661
9期(2018年10月12日)	10,032		△0.1	—	595

(注) ファンドの商品性格に適合する適切なベンチマークおよび参考指数はございません。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額	
		騰 落	率
(期 首) 2017年10月12日	円		%
	10,038		—
10月末	10,038		0.0
11月末	10,037		△0.0
12月末	10,037		△0.0
2018年1月末	10,037		△0.0
2月末	10,036		△0.0
3月末	10,036		△0.0
4月末	10,035		△0.0
5月末	10,035		△0.0
6月末	10,034		△0.0
7月末	10,034		△0.0
8月末	10,033		△0.0
9月末	10,033		△0.0
(期 末) 2018年10月12日	10,032		△0.1

(注) 騰落率は期首比です。

## ○運用経過

(2017年10月13日～2018年10月12日)

## 基準価額の推移

期間の初め10,038円の基準価額は、期間末に10,032円となり、騰落率は△0.1%となりました。

## 基準価額の変動要因

期間中、基準価額に影響した主な要因は以下の通りです。

<値下がり要因>

- ・無担保コール翌日物金利がマイナス圏で推移したこと。

(国内短期金利市況)

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.02%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、-0.04%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.17%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.31%近辺で期間末を迎えました。

## ポートフォリオ

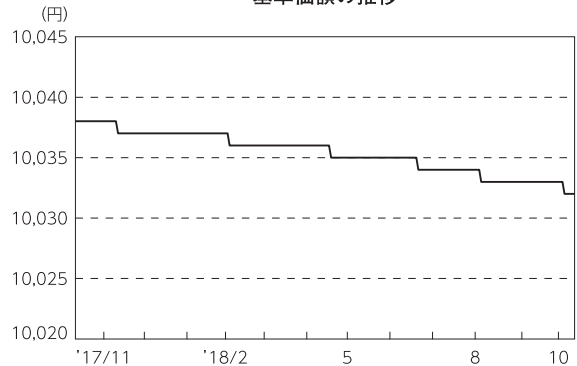
運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コール・ローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

## ○今後の運用方針

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主要投資対象は原則として、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コール・ローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

基準価額の推移



期首	期中高値	期中安値	期末
2017/10/12	2017/10/13	2018/10/04	2018/10/12
10,038円	10,038円	10,032円	10,032円

## ○1万口当たりの費用明細

(2017年10月13日～2018年10月12日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用 ( そ の 他 )	円 1 (1)	% 0.006 (0.006)	(a)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	1	0.006	
期中の平均基準価額は、10,035円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2017年10月13日～2018年10月12日)

該当事項はございません。

## ○利害関係人との取引状況等

(2017年10月13日～2018年10月12日)

## 利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$		うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$	
金銭信託	百万円 11,132	百万円 11,132	% 100.0	百万円 11,132	百万円 11,132	% 100.0

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三井住友信託銀行株式会社です。

## ○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2017年10月13日～2018年10月12日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

## ○組入資産の明細

(2018年10月12日現在)

2018年10月12日現在、有価証券等の組入れはございません。

## ○投資信託財産の構成

(2018年10月12日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	605,858	100.0
投資信託財産総額	605,858	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2018年10月12日現在)

項	目	当	期	末
(A) 資産				605,858,725
	コール・ローン等			605,858,725
(B) 負債				9,859,302
	未払解約金			9,858,703
	未払利息			599
(C) 純資産総額(A-B)				595,999,423
	元本			594,074,221
	次期繰越損益金			1,925,202
(D) 受益権総口数				594,074,221口
	1万口当たり基準価額(C/D)			10,032円

(注) 当ファンドの期首元本額は658,910,922円、期中追加設定元本額は304,155,041円、期中一部解約元本額は368,991,742円です。

(注) 2018年10月12日現在の元本の内訳は以下の通りです。

・中華圏株式ファンド(毎月分配型)	358,147,422円	・グローバルC o C o 債ファンド 新興国高金利通貨コース	725,751円
・資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルレアル・コース>(毎月分配型)	36,196,956円	・エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド・資源国3通貨コース	723,023円
・アジア社債ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	26,256,562円	・グローバルC o C o 債ファンド ヘッジなしコース	691,513円
・エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(マネーパールファンド)	19,096,921円	・日興ハイブリッド3分法ファンド毎月分配型(円ヘッジコース)	635,335円
・インデックスファンドMLP(毎月分配型)	18,570,537円	・グローバルC o C o 債ファンド 先進国高金利通貨コース	544,823円
・アジア・ヘルスケア株式ファンド	15,981,965円	・エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド・円コース	463,986円
・エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド・ブラジルレアルコース	12,364,787円	・世界標準債券ファンド(1年決算型)	460,453円
・世界標準債券ファンド	12,050,910円	・アジア・ハイイールド債券ファンド(為替ヘッジあり)	381,841円
・エマージング・プラス(マネーパールファンド)	10,591,675円	・資源株ファンド 通貨選択シリーズ<南アフリカランド・コース>(毎月分配型)	356,561円
・ピムコUSハイインカム・ローン・ファンド(毎月分配型) 為替ヘッジなし	9,431,195円	・世界のサイフ2(毎月分配型)	233,801円
・アジア社債ファンド Aコース(為替ヘッジあり)	9,152,201円	・インデックスファンドMLP・為替ヘッジあり(適格機関投資家向け)	215,785円
・エマージング・プラス・成長戦略コース	8,702,715円	・ノーロード世界株式トップフォーカス	127,193円
・アジアリートファンド(毎月分配型)	7,421,881円	・日興ハイブリッド3分法ファンド毎月分配型(通貨プレミアムコース)	116,742円
・RS豪ドル債券ファンド	5,978,333円	・ABグローバル・ハイインカム・オープン(1年決算型) 為替ヘッジあり	99,919円
・グリーン世銀債ファンド	4,236,231円	・上場インデックスファンド海外新興国株式(MSCIエマージング)	99,902円
・オーストラリア・インカム株式ファンド(毎月分配型)	3,764,914円	・グローバル・ハイブリッド・プレミア(為替ヘッジあり)	72,778円
・日興ハイブリッド3分法ファンド毎月分配型(新興国通貨戦略コース)	3,251,660円	・ノーロード・シンガポール高配当株式フォーカス(毎月分配型)	47,478円
・グローバルC o C o 債ファンド 円ヘッジコース	3,051,032円	・日興ハイブリッド3分法ファンド毎月分配型(ヘッジなしコース)	40,587円
・資源株ファンド 通貨選択シリーズ<米ドル・コース>(毎月分配型)	3,035,103円	・グローバル・ハイブリッド・プレミア(為替ヘッジなし)	38,995円
・資源株ファンド 通貨選択シリーズ<オーストラリアドル・コース>(毎月分配型)	2,956,103円	・ABグローバル・ハイインカム・オープン(毎月分配型) 為替ヘッジなし	23,036円
・アジアREITオープン(毎月分配型)	2,052,394円	・上場インデックスファンド海外先進国株式(MSCI-KOKUSAI)	19,997円
・エマージング・プラス・円戦略コース	2,037,236円	・上場インデックスファンドNifty50先物(インド株式)	19,983円
・SMB C・日興 世銀債ファンド	1,967,219円	・上場インデックスファンド米国株式(S&P500)	19,983円
・インデックスファンドMLP(1年決算型)	1,694,896円	・上場インデックスファンド豪州リート(S&P/ASX200 A-REIT)	19,977円
・高金利成長通貨ファンド(毎月分配型)	1,671,472円	・アジア債券ファンド(毎月分配型)	16,193円
・ピムコUSハイインカム・ローン・ファンド(毎月分配型) 為替ヘッジあり	1,646,511円	・ABグローバル・ハイインカム・オープン(1年決算型) 為替ヘッジなし	12,325円
・欧州社債ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	1,507,644円	・上場インデックスファンド新興国債券	9,981円
・日興マネー・アカウント・ファンド	1,146,753円	・上場インデックスファンド米国株式(S&P500) 為替ヘッジあり	9,967円
・ノーロード・インド株式フォーカス(毎月分配型)	1,062,998円	・上場インデックスファンド米国債券(為替ヘッジなし)	9,958円
・日興グラビティ・ファンド	1,051,712円	・上場インデックスファンド米国債券(為替ヘッジあり)	9,958円
・アジア・ハイイールド債券ファンド(為替ヘッジなし)	957,814円	・ABグローバル・ハイインカム・オープン(毎月分配型) 為替ヘッジあり	4,133円
・欧州社債ファンド Aコース(為替ヘッジあり)	786,512円		

(注) 1口当たり純資産額は1,0032円です。

## ○損益の状況

(2017年10月13日～2018年10月12日)

項	目	当	期
(A) 配当等収益			円
	受取利息	△	361,869
	支払利息		1,241
(B) 保管費用等		△	363,110
(C) 当期損益金(A+B)		△	44,086
(D) 前期繰越損益金			2,493,348
(E) 追加信託差損益金			1,111,221
(F) 解約差損益金		△	1,273,412
(G) 計(C+D+E+F)			1,925,202
	次期繰越損益金(G)		1,925,202

(注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。  
 (注) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

## ○お知らせ

## 約款変更について

2017年10月13日から2018年10月12日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。